

はぐくむ N君の卒業展示

「自分らしさ」探し続けた末に

今年も卒業シーズンがやってきました。高校の卒業式を前に、1年のまとめとして学習発表会が行われます。教科だけでなく、授業外で取り組んできた作品の展示や発表が校内各所で行われます。

その中に、「3years:the Form of encounter」の写真部部長のN君の展示がありました。紹介文は次のように始まります。

「個性とは？ 自分らしいものとは？ 自分のスタイルとは？ 私がこの3年間、自分に問うてきたことであり、探していたものでもあります」

中学時代の彼は、目立たないように過ごしていました。絵を描くことが好きでしたが、「自分らしくありたい、自分らしいものを探さなければいけない」と思

う一方で「目立つことは避けたい」というジレンマを感じていたそうです。「ひとのパクリしてんじゃねえよ」という言葉が、常に身近にありました。

進学の際、もともとは県立が第一志望でした。併願の私立を考えた時、ただ近いという理由で本校の見学に来たそうです。ところが、実際に見てみて「ここなら好きな絵を思う存分描ける。自分を表現できる」と感じ、決めたといいます。

入学後、学園祭で見た展示をきっかけに写真部に入部。写真を撮り始めましたが、ずっと「誰かのまねごとではないのか」と自問し続けてきました。モチベーションをかき立てられるのは、他者の作品を見て「こういう写真が撮りたい」と思った時だったからです。

変化が訪れたのは3年になってから。教師と対話するうちに、「何物にも影響されない自分など無い」「絶えず誰か、何かに影響されながら存在するしかない」と気づき、開き直ることができました。个性的であることへのこだわりが薄らぎ、「気が楽になった」と言います。

「ここでの3年間の出会いがあったから、今の私がいる。出会いが私のスタイルを形作ったのです。しかし、今のスタイルは今だけのもの。これからの出会いが革新的に私を作り続けるのです」。展示の文章はこう締めくくられています。

彼は大学でも写真を学ぶことにしました。今は手探りな作品の数々ですが、今後たくさんの出会いを通して「自分の写真を生み出していくのでしょう。彼の写真がどのようなものになら変わるっていくか、楽しみです。

(自由の森学園理事長 鬼沢真之)